



▲消防団による復旧作業 (提供：西条市)

背景

平成16年(2004)9月の台風21号では、愛媛県内でJR予讃線、松山自動車道、国道11号が寸断されるなど大きな被害が出ました。西条市では、鉄砲水が民家を襲い住民が亡くなったほか、土砂崩壊等により家屋、公共施設などに甚大な被害が発生しました。

アクセス

砂防施設 (大浜地区)

- いよ西条ICより南東へ直線距離約1.5km
- 西条市大浜
- 緯度経度 北緯33度54分09秒, 東経133度13分36秒



平成一六年(二〇〇四)の台風二一号の時、西条市の水防本部で対応に当たった人の体験談です。今まで経験したことがない大雨の中、西条市の水防本部の電話は鳴りっぱなしです。「道路が土石流で壊れて逃げ出せない」、「家の裏山から滝のように水が流れ出して、今にも山が崩壊しそうだ」、「家の前の川があふれて家の中に流れ込んでいる」などとせつば詰まった声で市民からの救援依頼が次々に飛び込んできます。未曾有の大災害です。

その中で谷の出口にある障害施設からの電話は深刻なものでした。「谷の沢水がものすごく増水している。今にも土石流が発生しそうだ。土石流に襲われたら施設の多くの入居者が犠牲になる。施設の担当者だけではどうにも避難させられない。一刻も早く助けに来て欲しい」とのこと。

「そうだ、あそこは確かに危険だ」ということで水防本部では、この電話を受けるやいなや消防団や地域の人たちにすぐに応援を求めました。そして、「土石流に襲われる前に何とかしなければ。とにかく間に合ってくれ」と天にも祈る気持ちで急いで救助に向かいました。

現場に着くと水は深いところでは、すでに胸の高さまで達しています。施設の入所者は恐怖で一様に青ざめて震えています。その人たち一人一人を背負っての危険な避難です。洪水の流れの中での避難は本当に怖く、泣き出す人が何人もいました。このような状況の中で施設の入所者に一人の犠牲者も出なかったのは奇跡としか言いようがありません。これはみんなが心を一つにして、困難に立ち向かったからだと思っています。

昭和四〇年代以降